

2018年3月期 第2四半期 (累計)		
連結経営成績		対前年比
売上高	9,923百万	+0.5%
営業利益	△46百万	—
経常利益	68百万	—
当期純利益	17百万	—

経営環境

☞世界経済は全般的に回復傾向が続きながらも、地政学リスクの顕在化による景気への波及が強く懸念されており、先行き不透明感は払しょくされておられません。

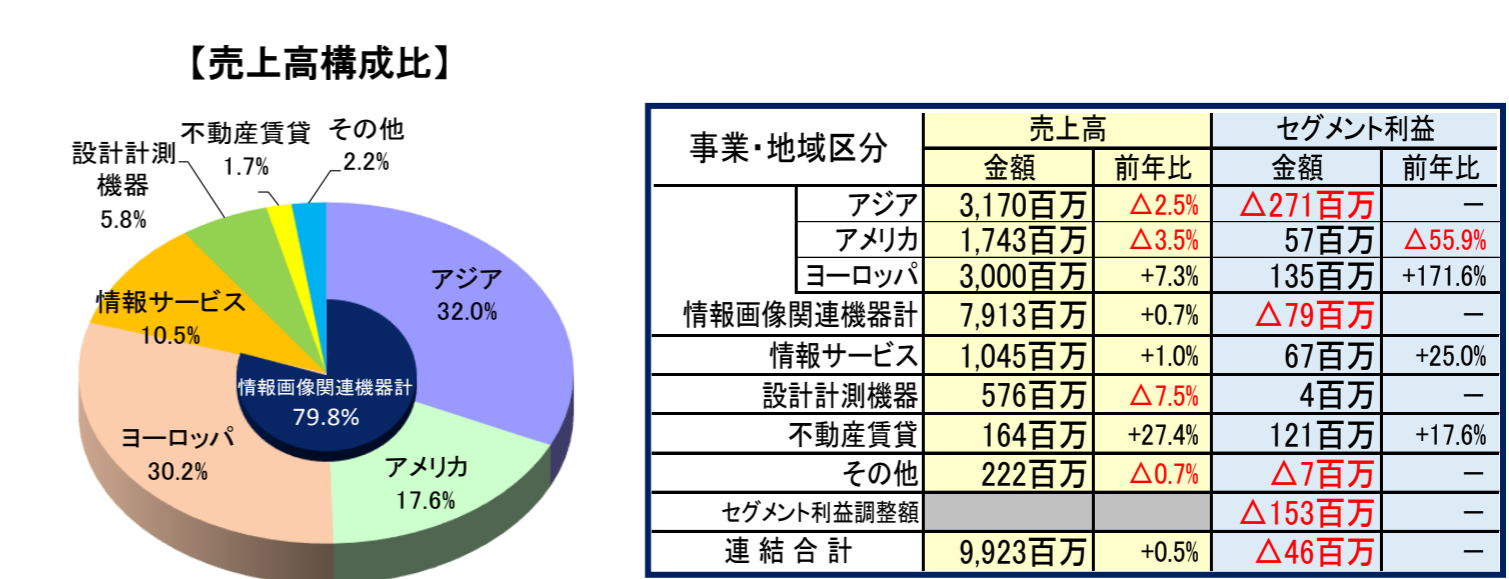
☞当社グループは、経営基盤の強化、意思決定のスピードアップを目的に前年度より組織再編を行うと同時に開発・生産・販売にわたる経営改革を推進してまいりました。その結果、在庫の圧縮と合理化による経費削減等に一定の効果が表れていますが、当社の主力製品である大判インクジェットプリンタ市場においては、大手メーカーの参入による世界的な競争激化から、製品価格の下落傾向が続いております。業績面では、在庫圧縮実施による一時的な原価率の上昇と競争激化による製品価格の下落圧力の影響を受ける結果となりましたが、為替円安基調から対前年増収増益となりました。

期中平均為替レート比較		
	実績	前年差額
US\$	111.05円	+5.85円
EUR	126.31円	+8.27円

経営成績		
売上高	+53百万	☞主に、主力製品大判インクジェットプリンタ事業において、製品価格下落の影響を受けましたが、為替円安要因から対前年増収となりました。
売上総利益	△198百万 △5.9%	3,201百万 (原価率:67.7%⇒+2.2%) ☞収益構造改革での在庫圧縮による原価率の上昇等によります。
販売費・一般管理費	△135百万	3,247百万 ☞主に販売費46百万の減少と、開発費削減など一般管理費での89百万減少によります。(労務費△32百万、経費△103百万)
営業利益	△62百万	☞売上高増加に加え販管費の削減に努めましたが、主に売上総利益減少要因から対前年減益となりました。
経常利益	+166百万	☞営業外収入の為替差益96百万の計上(前年は差損79百万)要因から営業外収支は1億14百万増加となり対前年増益となりました。
当期純利益	+212百万	☞経常利益の増加要因に加え、特別利益にて、投資有価証券売却益1億2百万の計上等から対前年増益となりました。

セグメント情報	
アジア	☞大判インクジェットプリンタの販売は中国を中心とした販売価格下落の影響、3Dプリンタにおいては販売の一服感と低価格化進行による影響を受けました。
アメリカ	☞主に製品価格下落の影響を受けました。
ヨーロッパ	☞欧州全般に広がる地政学リスクの影響と大手メーカーの価格攻勢による影響を受けましたが為替の円安効果と経費削減等の効率化もあり増収増益となりました。
情報画像関連機器計	☞為替円安要因はありながらも、製品価格下落等の影響を受けました。
情報サービス	☞売上は堅調に推移し、事業集約等組織再編での合理化効果もあり増収増益となりました。
設計計測機器	☞対前年減収ながら、事業集約等の合理化効果もあり利益面では増益となりました。
不動産賃貸	☞未稼働物件の稼働により増収増益となりました。
その他	☞売上は概ね前年並みに推移しましたが円安による仕入価格上昇等により減益となりました。

財政状態 (2017年3月末対比)		
総資産	30,730百万 +215百万	☞主に固定資産増加要因によりますが、収益構造改革の一環として在庫圧縮を加速度的に実施したことなどにより現預金残高は6億96百万増加となりました。
流動資産	18,747百万 +57百万	☞現預金6億96百万増加が寄与。他科目では、その他流動資産1億57百万他増加し、売掛債権2億68百万、たな卸資産5億91百万他、減少致しました。
固定資産	11,982百万 +157百万	☞有形固定資産1億5百万、無形固定資産5百万、投資その他の資産47百万の増加要因によります。
負債合計	7,013百万 △17百万	☞主に流動負債15百万の減少要因によります。その主な増減は、買掛債務4億74百万減少、未払法人税等68百万、未払金2億3百万等増加致しました。
純資産	23,716百万 +232百万	☞主に配当支払い等により株主資本は1億43百万減少しましたが、評価・換算差額合計額増加3億79百万等の増加要因によります。



キャッシュ・フローの状況 (2017年4月～9月期間)		
営業活動	+672百万	☞たな卸資産圧縮による資金増加要因等を主因として期間増加となりました。主な内訳は資金増加要因として、たな卸資産7億44百万、売上債権3億98百万等、減少要因として仕入債務5億55百万等によります。
投資活動	+313百万	☞主に固定性預金の収入に加え投資有価証券増減収入1億53百万等により期間増加となりました。
財務活動	△215百万	☞主に株式配当金の支払いによります。
現金同等物の期末残高	9,492百万	☞上記活動要因に加え、換算差額1億65百万により2017年3月末対比9億36百万の増加となりました。(参考:2016年9月対比 1,672百万増加)

業績予想 および 配当予定				
業績予想 (百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
通期 (2017年5月開示現在)	21,100	420	420	250
通期の連結業績予想につきましては、変更はありません。				
配当予定(円)	第2四半期末	期末	年間	前年増減
1株当たり配当金額	0.00	35.00	35.00	
10月1日付、株式併合(10株につき1株の割合)を考慮した金額を記載しております。なお、株式併合を考慮しない場合の1株当たり期末配当金年間予定額は、3円50銭となります。				